

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300367		
法人名	有限会社 浜本		
事業所名	グループホーム ひがしもこと		
所在地	網走郡大空町東藻琴538番地4		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhfw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=0175300367-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの事業所の周りには、自然豊かな環境が沢山あり、穏やかな生活を送るには最高の土地です。大空町は、基幹産業である農業や酪農を営んでいる方が多く、収穫時期になると野菜類を届けて下さり、旬の食材で季節を感じながら、美味しく頂いております。従事している職員は、半数以上が女性で、家庭的な雰囲気はもちろん、女性ならではの細やかな配慮や心遣いにて、支援させて頂いております。事業所内は、回廊式になっており、居室や居室の窓が大きく沢山の光が入り、閉塞感を感じにくくなっているのが特徴です。《理念》家庭的なやすらぎのある環境の中で 地域と関わりを持ち 尊厳を持って その人らしく 元気に 暮らすことができるよう お手伝いさせていただく。という理念を掲げ、利用者様、ご家族様、職員全員が笑顔の絶えない事業所を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓いっぱい広がる自然の風景が心を落ち着かせ、リビングには明るく穏やかな雰囲気が広がっています。「家庭的なやすらぎのある環境の中で 地域と関わりを持ち 尊厳を持って その人らしく 元気に 暮らすことができるよう お手伝いさせていただく」という理念を掲げ、管理者、職員は常に利用者の心に寄り添った介護に取り組んでいます。じっくり、家族らし関わりが出来るよう利用者の話をよく聞くように努め、そのことを具体的に形に表しサービス提供に繋げています。一人ひとりの特徴に合わせ、毎日の歩行訓練を行う利用者は、回廊式の廊下を利用して、回数は本人が決めて行っており、嫌がることは決して無理強いすることなく楽しく取り組めるよう支援しています。また、誤嚥の恐れのある利用者が、流動食ではなく普通食が食べたいとの願望を持っており、最初から決めつけるのではなく安全を考えたくうえで可能性を追求し、今では普通職で食事ができるまでになっています。現在のコロナ禍で面会がままならない家族には毎月写真を掲載した「笑満通信」を送付し電話連絡は小まめに行って安心できるように配慮しており信頼関係が出来ています。介護に縛られるのではなく、その人の願いを提供出来る取り組みを目指し、生きてる実感がある生活が送れるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が見られるように、理念を玄関や事務所、談話室へ掲示し、理念に沿ったサービスの実現に取り組んでいる。	開設時からの理念を玄関、リビング、事務室の常に見える場所に掲示して意識するよう努め、職員会議では契約書に書かれている事を理解するよう指導し、実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、町内の福祉会からお誘いを受け、行事に参加させて頂いているが、コロナ禍で全面的に中止の為交流出来ていない。	今年度は新型コロナの影響で地域の盆踊り行事は中止になっており、婦人部の訪問はありますがその他の交流は行われていません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の地域ケア会議や連絡会議へ参加し、意見交換をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染防止の為来館はして頂かず、2ヵ月に1回、紙面に運営推進会議行い、利用状況や活動報告等についてのご意見等を、FAXで返信頂いている。	運営推進会議は利用者家族、町担当者、自治会役員、民生委員、知見者を委員として開催していますが現在は新型コロナの影響で書面開催を行っています。毎回資料とFAX通信表を送り意見を求め公表し運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や連絡会議に参加させて頂き、情報交換等、行政との連携を図りながら、サービスの質の向上に努めている。	町支所担当者とは運営推進会議出席や報告事項提出で訪問し助言や指導を得ています。ケアマネージャーが地域ケア会議に出席しており連携を図りながら協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを整備し、玄関の施錠やセンサーの設置を含め、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束廃止に向けては毎月の職員会議で検討し、年3回研修に取り組み、身体拘束の弊害や禁止行為を正しく理解しています。懸案事項がある時は全員で共有し身体拘束の無い介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、個々の利用者の状況を把握しながら虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてファイルし、職員で情報共有している。現在1名が成年後見制度を活用しており、後見人及び身内の方とも連携を図りながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書にて十分な説明を行い、利用者やご家族の方からの疑問や不安な点に対しても、十分に説明し理解・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に苦情相談窓口を設置している。ご家族の面会時や電話連絡、事業所便りにて利用者様の日常の様子をお伝えし、ご家族様の希望・要望をお聞かせ頂くことにより、より良い関係を築けるよう努めている。	利用者の要望は日常の会話の中で、家族の話は面会時に伺うようにしていましたが、現在は新型コロナの影響で面会は少なくなっており、電話連絡が主になっています。また、写真を多く掲載した笑顔通信を毎月発行しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し、日頃の会話の中でも、職員の意見や提案を把握し運営に反映させている。	管理者は、職員の意見や提案を業務の中や毎月の会議で把握するよう努め、シフトや有給休暇等話し合いながら職場環境向上に取り組んでいます。	ヒヤリハット等の気付きや研修を職員自身が担当するなどでの自己啓発できる環境作りを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が就労継続出来るよう、就労時間や日数も含め、職場環境や条件の向上に努めている。又、有給休暇を取得できるよう職員と話し合いながら、他職員に無理の無いようシフト調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、各自の力量を把握している。外部研修への参加は、感染防止のため出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や連絡会議に参加させて頂き、同業者との意見交換や交流の機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面談や施設見学を実施し、本人の要望や不安を十分に聞かせて頂き、安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前から、施設見学やサービス内容を説明し、ご家族様の思いを察し、話しやすい環境づくりと不安や疑問に対応し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、利用者様やご家族様との話し合い、支援内容を検討し介護計画を立て、適切なサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの残存機能を活かし、作業を一緒に行うことで暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、ご家族様に状況を報告したり、ご家族様にもご協力頂き、共に本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、馴染みのある物を持参頂くなど、ご家族様にもご協力頂き支援している。又、友人や親戚等の文通や電話等も、いつでも出来るよう配慮している。	馴染みの理美容室、商店等への訪問はなくグループホームでの生活が総てとなっています。友人の訪問もコロナの影響で無くなっており電話での会話で関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の特徴や性格を把握し、相性を考慮し支援している。レクリエーション等を通し、利用者様同士が良い関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の殆どが、終末期の医療移行である為、経過をフォローすることは無いが、問い合わせや相談には随時対応出来る体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のお話を傾聴し、意向に添えるよう努めている。困難な場合は、表情や行動を見逃さず、思いを汲み取るよう努め、職員間でも共有している。	一人ひとりの思いや暮らし方の意向は家族からの生活歴情報や日常会話で把握するよう努めています。毎日の行動や言葉で何をしたいかを推測し実現できる様に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にキーパーソンとなるご家族様からの、生活歴等の情報で把握している。その他にも、生活の中で本人より知り得た情報を職員間で共有し、サービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者様の状況を確認し、生活記録や申し送りノートで情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意向を取り入れながら、計画作成担当者を中心に、職員からの意見も取り入れ、モニタリングや介護計画を作成している。状況に変化があった場合はその都度見直し、サービス担当者会議の開催も随時行っている。	介護計画は利用者、家族の要望を反映し、基本的に短期目標期間終了時に見直しを行っています。毎月の職員会議でカンファレンスを行い、見直し時のモニタリング、サービス担当者会議で現状に即した計画を作成しサービス提供に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の他に、申し送りノートを活用して情報を共有し、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望を実現する為、チームケアとして多様な支援を行っている。感染防止の為、不要不急の外出外泊はお断りしているが、ご家族の意向に添い柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、近隣の高齢者施設や地域の行事に参加させて頂いているが、コロナ禍で全面的に中止の為参加出来ていない。又、消防の協力を頂き、避難訓練を実施し安全に生活出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師や往診医に対応策を相談すると共に、利用者様やご家族様の希望を重視し、ご家族様の協力を得ながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	町内の中央病院診療所がかかりつけ医になっており家族の協力を得て受診しています。往診、訪問診療を受けている利用者もおり、訪問看護師による毎月2回の訪問があり安心な医療体制が出来ています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師等に、日々の心身の状態や情報、気づきを伝え、支持を受けながら利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。又、24時間電話対応可能であり、相談することが出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の問合せや協力依頼があった場合、速やかに対応出来るよう努めている。安心して治療が出来るよう詳細な情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明し、ご理解いただいている。事業所での出来る範囲を伝え、出来るだけ早い段階で対応できるよう支援している。	重度化した場合や終末期の対応については医療連携の指針を作成し契約時に説明し理解を得ています。基本的には看取りは行われていませんが、食事を摂ることが可能な限り出来るだけ介護できるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備している。救急搬送時には、救急隊との情報共有が迅速に出来るように利用者情報を作成し、その都度更新している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。救急通報装置やスプリンクラーも設置し、定期的に点検を行っている。救急時には、近隣住民からの協力が得られるよう体制を整備している。	年2回消防署の指導と助言を得て火災の避難訓練に取り組んでいます。他の災害対応では発電装置や照明機器を用意し備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等にて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けるよう周知している。	利用者の人格やプライバシーを損ねない声掛けや呼び方を心がけており、管理者、職員は会議の中で確認して、常に自尊心を傷つけない配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重するようにし、自己決定が出来ない場合は、いくつかの選択肢を設けるなどして、出来るだけ希望を聞き出せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールは設けているが、その日の気分や体調を優先し、出来るだけ希望に添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう、その人の力に応じた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を取り入れながらメニューを決め、下膳や食器拭き等の家事活動にも参加して頂いている。	献立は毎週事務局で作成し、管理者が食材購入を行っています。職員が調理を担当し利用者にも片付け、食器拭きを共同で行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を個々に記録し、嚥下状態が低下している方には、刻みやトロミ、お粥等で対応、食事量の低下がある方には、医師へ相談し代替品等で対応している。体重増加のある方には、量の調整や身体的な特変の有無を確認し、必要に応じ医師へ相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を毎食後行い、義歯の洗浄・預かりも利用者様個々に合わせて行っている。又、義歯の預かりに応じて頂けず、臭いが気になる方には、洗口液の使用等工夫して対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っている。トイレ回数やパット汚染が多い方には、なるべく便座に長く座って頂くよう声掛けし、排泄物を出し切れるよう対応している。	利用者一人ひとりの介護24時間シートに排泄記録をつけ、時間間隔や様子を把握し声掛け誘導をしています。なるべくトイレでの排泄が出来るように様子を見ながら対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事を心掛けたり、水分を摂って頂けない方にも工夫して提供している。また、余興活動にて体操や館内歩行運動を行い、便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回程度の入浴とし、一人ずつゆったり安全に入浴出来るよう介助している。拒否や体調不良時は、他利用者と変更するなど対応している。又、日替わりで入浴剤の種類を替える等工夫をしている。	湯は毎日立てており利用者は3日ごとの入浴を基本としていますが、その日の状況や状態を見て入浴支援しています。入浴剤を工夫して楽しく取り組めるよう配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間に決まりはなく、その時の状況に応じて個々の生活習慣に配慮しながら、休息・安眠が出来るよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬をいつでも確認出来るようファイルにしている。利用者様個々の力に応じた服薬支援を行っており、服薬変更や経過についても、記録や申し送りノートにて情報共有している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活を送られるよう、その人の力に応じた役割を担って頂いたり、個々の希望に添った気分転換にも対応出来るよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、外気浴や散歩など日常的な外出や町内の行事に参加したり、ご家族様の協力のもと、お盆やお彼岸のお墓参り、外食、ドライブ等支援しているが、感染防止の為出来ていない。	桜、芝桜、季節ごとにドライブで自然を楽しんでいます。外食や買い物、お盆には墓参りと家族の協力を得て行っていますが、現在はコロナの影響で行っていません。気候が良い時には散歩や外気浴で外の空気を感じ、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人及びご家族様と相談し、お金の所持については、その都度適切に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える景色は、四季を感じることができ、館内には行事や日常の活動の写真や、花を飾り、温かい雰囲気を感じられよう工夫している。	リビングには大きな窓から外の風景が見られ、季節を感じることができます。回廊式の廊下で歩いたり、和室がリビングに隣接しており休憩することができます。行事や日常生活の写真、季節の飾りつけがされて、楽しく、居心地よく生活できるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が一人になれたり、ご家族様や他利用者様と過ごせるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にクローゼットが完備されており、利便性の良い空間で、家族の写真や馴染みの物が持ち込まれ、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	居室にはクローゼットが用意され、寝具、筆筒、椅子、机等と自宅で使用されていた家具を配置して、家族の写真を飾り自宅同様に居心地よく生活できるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダー等を目に付きやすい場所に設置。廊下やトイレに手すりを完備し、自立した生活が送れるよう支援している。状態に応じてセンサーを利用し、安全を補強している。		